



塗装工事における留意点(強・弱溶剤形塗料共通)

【適応:無機系素地】

◆ 設計上のご注意

1 (目地取りについて)

施工する塗布面の目地取りは、できるだけ短い間隔でご計画ください。
1スパンの塗布面が極端に大きく、吹き継ぎが必要となりますと、吹き継ぎムラなどを生じ美観をそこねます。
さらに経年変化に依る構造収縮クラックが発生した時、塗膜性能上に問題が生じる場合があります。
特に平面仕上に近いコートは、ムラなどが目立ちやすいため目地取りが大切です。

2 (シーリング材上への塗装について)

- ① シーリング材の上にボンフロン塗装を行なう事は避けてください。
短期的に密着するものもありますが、長期的に見た場合、ボンフロンの塗膜がシーリング材の伸縮に追従できず、割れが発生します。
- ② シーリング材の後打ちは避けてください。

3 (足場について)

足場の結束は施工する躯体の目地底あるいは開口部などで行なうようにし、塗装面を避けてください。
塗装面に足場を結束すると足場を取りはずした後、補修が必要となり仕上りの美観を損なうため好ましくありません。

◆ 施工上のご注意

1 (気象条件)

- ① 5℃以下の低温、または85%以上の高湿では、材料の性能発揮に時間がかかり、塗膜やパテ材の性能が低下しますので、施工を避けてください。
- ② 降雨・降雪時および、その直前・直後に施工すると、塗膜の流出や造膜不良が発生します。
施工中に降雨・降雪にあった場合は、直ちに施工を中止し、シート養生して塗装面を保護してください。
- ③ 強風の場合は、塗装ムラ、飛散汚傷が発生しますので、施工を避けてください。
- ④ 気象の変化により、下地や塗布面に結露が生じた場合には、塗膜の接着不良が起きますので直ちに施工を中止してください。

2 (調合上のご注意)

- ① 塗料および主材、パテ材は2液反応硬化型なので、配合比に注意して調合し、硬化剤添加後は十分攪拌し混合ムラのないようにしてください。
- ② 各工程の材料は2液反応硬化型なので、可使用時間を厳守し、材料の無駄を少なくするため可使用時間のみあった量を設定して調合してください。
- ③ シンナーは各材料ごとに専用シンナーを使用してください。また、施工時の気温によって蒸発程度が異なりますので、その都度適切なシンナーと、塗料粘度を検討してください。

3 (労働環境)

有機溶剤を使用するので、換気や火気に十分注意を払い、施工者の健康管理に気をつけると同時に、周囲の環境にも十分注意してください。

◆ 下地の調整

下地の調整は、仕上り美観に大きく影響しますので、各下地にみあった下地調整を施してください。
下地調整の方法は下記の通りです。

1 (付着物の除去)

下地表面に付着しているエフロレッセンスによる白粉、レイタンス、ほこりなど、吹付塗装に支障をきたす付着物はワイヤーブラシ、サンドペーパー、サンダー掛けなどによって除去してください。

2 (離型材、油脂類の除去)

下地に離型材、油脂類などが付着している場合は、ラッカーシンナーでふき取るか、ワイヤーブラシ、サンドペーパー、サンダー掛けなどによって除去してください。

3 (金属類の除去)

コンクリート、PC板などの下地に残留する金属類(鉄筋、セパレーター、番線、ビス釘など)は除去するか、防錆処理を施してください。

4 (ビス処理)

スレート板、パネル板でビス止め施工をする場合は、ビスは板面よりやや下の位置に止め、防錆処理をした後にエポキシ・パテを塗布し、平滑な仕上りとしてください。

5 (下地の平滑化)

下地に、型枠の不陸、目違い、ジャンカ、ピンホール、欠損などがある場合は、セメント系下地調整材を用いて処理してください。

セメント系下地調整材はJIS A 6916相当品をご使用ください。

◆ SR仕様・施工上の注意点

- 1 主剤と硬化剤の調合は正確に行い、誤差は主剤:硬化剤=5:1±0.1(±10%)以内としてください。
特に、タッチアップ時などには絶対に目分量で計らないでください。
主剤と硬化剤は十分に攪拌してから使用し、ポットライフにもご注意ください。
シンナー希釈も統一することが望ましいと考えられます。
- 2 タッチアップは必要最低限の面積とし、シーリング、防水材などによる可塑剤等や油性汚れが付着している場合にはきれいにしてから塗装してください。
- 3 他の塗料やシーリング、防水材、これらに由来する可塑剤や油性成分が付着している可能性があるハケやローラーは使用せず、清浄な塗装器具を使用してください。
- 4 SR中塗・上塗の塗り忘れやSR上塗に擦り傷などがついた場合にはその箇所だけ汚れて目立つようになりますのでご注意ください。
また、塗装・養生時の湿度が高かったり、塗装直後に降雨があった場合にはSRの性能が低下する恐れがあることが考えられます。

◆ 下地の条件

1 下地の表面含水率とアルカリ度

表面含水率	10%以下	Kett高周波水分計測定	コンクリート、セメントモルタルなどに適用
アルカリ度	PH10以下	PH試験紙測定	適合素材すべてに適用

2 下地の乾燥養生期間

下地の種類 乾燥養生期間	打ち放しコンクリート PC板	軽量PC	セメントモルタル	スレート板 パネル板
夏季	21日以上	28日以上	14日以上	—
冬季	28日以上	35日以上	21日以上	—

制定日 2008.6.30	改定日
------------------	-----